

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series

から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.1

ここからはじめてみよう、特別支援学級



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

一人一人に合った学びを考える

特別支援教育では、障害による特性を理解し、その特性に応じた学習方法についての知識などが必要とされますが、それだけで成り立つものではありません。目の前の子供一人一人に合った学習活動を考えていくことが何よりも大切で、これは、これまで先生方が通常の学級で、それぞれ子供の学習の進め方やつまずきなどに合わせた指導や支援をしてきた経験が生きるものです。このような意味で、「特別支援教育」は「特別な教育」ではないのです。

- ◆「特別支援教育」を「特別な教育」と考えず、これまでの経験を生かして、目の前の子供一人一人に合った学習活動を考えましょう。
- ◆特別支援学級で経験を積むことで、多様な子供たちに対して、対応できる方法をこれまで以上に身に付けることもできます。

特別支援教育は「特別な教育」か？

皆さんは、特別支援学級の担任を務めることになったら、どのように思われますか。「特別支援教育には高い専門性が必要そうだが、務まるだろうか」などと思われるかもしれません。確かに、障害についての理解や、各障害に応じた学習方法についての知識などが必要とされるでしょう。しかし、それだけではありません。特別支援学級の担任に求められる最も大切なことは、一人一人の子供がどのようなことに興味や関心があるか、得意なことや苦手なことは何かなどを学校生活の中で把握することです。

皆さんは、今までの授業の中でも、一人一人の子供の様子を丁寧に見取ってきたのではないのでしょうか。おそらく、どの先生も子供の学習の様子を考えずに画一的に授業を進めてはいなかったはずで。うまくいかない子供に別の見方から考えるような声掛けをしたり、課題に組みやすくなるような教材・教具を用意したりするなど、子供が学習する上で悩んだり、困ったりしていることに対して、その子供に応じた取組みを工夫されてきたのではないのでしょうか。まさに特別支援教育は、このような取組みです。

特別支援学級での教育は、これまで行ってきた教育と全く別の教育ではないですし、これまでなかなか十分に組み合わさなかった一人一人に応じた指導が存分に行える場でもあります。これまで経験したり、学んだりしてきたことを大切にして特別支援学級の担任に臨んでみてください。

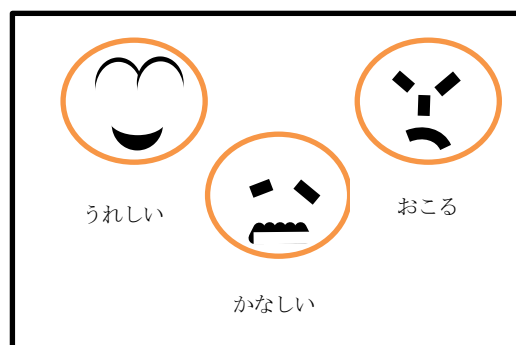


どのように取り組んでいくのか

特別支援学級の担任になったら、まずは、目の前の子供がどのようなことに興味があり、
どうしているのか？何が上手いのか？どうすれば上手いのか？実際の活動の中でよく見て捉えるようにしましょう。そして、子供一人一人に合った学
びの方法がないか、色々と取り組んでみましょう。

例えば、このようなエピソードがあります。特別支援学級での授業中、先生の問いかけにうまく答えられない子供に対し、ゆっくり話したり、表情を豊かに話したり、同じ指示を繰り返したりするなどの様々な工夫をしたのですが、なかなか理解が進まなかったそうです。ところが、ある時、音声に加えて、問いかけを文字で書いたものも示したところ、子供は答えるようになったそうです。また、別のエピソードとして、自分の感情を言葉で言い表せない子供が、ある時、友達との遊びの中で、友達の顔を見て、「嬉しい」「悲しい」などの感情を表す顔の絵を指していました。そこからヒントを得て、国語の時間に物語の登場人物の気持ちを聞くときなどに、感情を表す顔の絵を提示したところ、教師に少しずつ伝えられるようになったそうです。

このような試行錯誤をすることで、子供一人一人に合った学習活動を進めていくヒントが得られることと思います。



特別支援学級の担任を経験することで

特別支援学級では、少人数の子供と密接に関わることができ、担当した子供の成長や可能性を身近に感じることができます。そのことは、教師として大きな喜びでしょうし、教師としての成長にもつながります。例えば、ある先生からこのような経験を聞きました。「昨年度、通常の学級の担任をしていたのですが、算数の時間に文章問題で問われている内容を理解できない子供への指導に悩んでいたときに、特別支援学級を担当する A 先生から『文章問題に書かれている内容を絵に描いてイメージをもたせてみては？』とのアドバイスを受け、その方法を実践したら、子供が文章問題を理解できるようになってきて、A 先生に感謝したことがありました。」この A 先生のように特別支援教育の経験を積むことで、障害のある様々な子供たちに対応する方法が身に付き、やがて、障害以外にも様々な困難のある子供一人一人について、理解を深めながら教育を進めていくことにつながることでしょう。

特別支援学級で行う教育は、これからの学校教育が目指す「個別最適な学び」に相通するものです。これまでの経験を大切にしながら、障害のある子供の成長のため、子供の思いに寄り添って一つ一つ学んでいきましょう。特別支援学級の担任の経験は、皆さんのこれからの教員生活に大きな意義のあるものとなるでしょう。

☆さらなる理解のために☆

特別支援学級の担任として少しずつ知っておきたいこと

特別支援学級の担任になったら、最初に、どのようなことを知っておくとよいのでしょうか。まずは、それぞれの子供に合った学びを考えるために、障害の特性について理解することが大切になります。障害の特性により、学習場面で様々な「つまずき」が生じる子供たちがいます。そのつまずきや困難さに気付くには、先生ご自身が子供をよく見ていくのに加え、それぞれの地域の教育委員会や教育センターが発行している様々なガイドや指導資料を見てみるとよいでしょう。特別支援学級の学級経営についても同様です。これらのガイドや指導資料は、web ページ等から無料で手に入れることができます。＜参考情報＞に掲載したものを参考にするのもよいでしょう。

そして、特別支援学級に在籍する子供の指導や支援で困ったことがあったら、一人で悩まず、以前その子供を担当したことのある先生や、校内で支えてくれる役割の方に質問したりしてみるとよいでしょう。各学校には、多くの場合、以下のような職が置かれ、体制が敷かれているでしょう。

- ・特別支援教育コーディネーター（教員の校務分掌上の役職です。）
- ・特別支援教育支援員（教員以外が担当しています。）
- ・校内委員会（特別支援教育に関する校内の組織です。）

＜参考情報＞

○静岡県総合教育センター「特別支援学級スタートブック ゆったり構えて 元気よく 根気よく」

まず、これからの心構えとして4ページを読んでみてください。また、時期によってどのページから見ればよいか示されていますので、それを目安に読むのもよいでしょう。



○和歌山県教育センター学びの丘「初めて特別支援学級を担当する先生のためのスタートガイド」

初めて特別支援学級を担当する先生が、新年度の準備や新年度に行う一連のことが示されています。また、教室づくり（3～4ページ）では具体的な図や写真が掲載されて、参考になります。



○鹿児島県総合教育センター「初めての特別支援学級担任のための『特別支援学級』Q&A」

Q&A形式で各項目1～2ページにまとめられていて、必要なことを素早く確認できるよう示されています。



 独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ

<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803（代表）

初版発行 令和4年8月